

2022年12月6日（火）18時より、真庭市地域産業振興センターにて。
世話人会のメンバーと岡山県立勝山高等学校2年生の4名。

高校生を招くことになったのは、第2回の会議で出た「共生社会を考えるうえで、多様な価値観、境遇のひとたちの話を聞きたい」という意見によるものだった。

自分ごとを語ってもらうため、「差別を感じることはありますか」と、価値観の成り立ちや大人との違いがわかるのではないかと「道徳や倫理の授業では、どんなことを学んでいますか（大人に対しては、どんなことを学びましたか）」という問いかけ。

こちらから用意した問いを投げかけ、フリップに回答いただく方式。人数が多かったため、2班に分かれて行った。

第1問は「生活のなかで差別を感じることはありますか」と尋ねた。

【A班】

・（高校生）あります。

女性、男性について。女の子は女友だち、男の子は男友だちという空気感のあるところ。

・（高校生）あります。

家庭内の家事をする際に、一番に行動するのが女性のほうが多いと感じることがあるから。

・あります。

女性は評価までが短い。立派であることを求められる。

・あります。

人間は無意識のうちに、他者と自分の「違い」「同じところ」を考える生きものだから。だからこそ、意識しないと差別してしまう。

・あるんだろうけど

・自分自身については「ない」です。テレビなどでは聞く。

【B班】

・（高校生）あります。

クラス内のカーストなど。また、いじりといじめは差別だと思う。

・（高校生）あります。

静かなブサイクは陰キャラと呼ばれ、一方で静かなイケメンはクールだねと言われること。

・自身は感じないが、世のなかにはたくさんある。

・あります。

最近では、差別を認めない議員とか。あとは家に帰って、ごはんができていること（奥様に任せていること）

・あります。

差別と区別。人の心、思い

・あります。

海外で、のけもん。疎外感を覚えた。

・あります。

支援の必要な方を「困った人」と呼ぶ……。

・あります。

弱者への対応。

高校生 4 名全員が「ある」と答え、それはいずれも自分のこと、あるいは自分のすぐ近くのことであった。性による差別を感じている方も多かった。

第 2 問は「道徳や倫理の授業では、どんなことを学んでいますか（大人に対しては、どんなことを学びましたか）」。

【A 班】

・（高校生）命について。友だちの大切さ。

・（高校生）家族、友だちの大切さ。障がいのある友だち。

・桃太郎。鬼の子どもは泣いている。

・常識

・親孝行

・そもそも道徳・倫理の授業がありませんでした。

【B 班】

・（高校生）大人になるということは、ウソをつく人間になるということ。ウソつきは大人のほじまり。

・（高校生）ひとりの人間としての在り方。友を想う気持ち、いじめ、犯罪、悪口。

・人にやさしく。平等に。

・みんな仲良くしましょう。

・障がい者、部落、差別。

・他者に優しく、思いやり。万物の。

・人に優しく。

・50 年前ですが、「うそ」をつかない。悪口を言わない。「落ちたアイスクリーム」「剣道」「田村くん」「映画」。

・仲間はずれ。

総じて、差別に関しても、道徳に関しても、高校生 4 名はみな自分の言葉で語ってくれた。「普段なかなかこういうテーマで、なおかつ大人に向けて話すことはないんですけど」と言っていた。

会議後、世話人会だけのミーティングを行なった。

そのなかで、そもそも「この会議をどう進めていくのか」という話になった。

こういう機会を引き続き設けていくのか。

ゴールもなく、目標もない。期限もとくには定めていない。

ただ、「共生社会」という抽象的な概念である以上、行政から市民へ落とす、いわゆる「トップダウン」の方式ではなく、気運を高めていくようにしたい。

正直なところファシリテーターをはじめ、世話人会ぜんたいに戸惑いが漂っていたように思う。行政としてもはじめての「会の運営方法」で、ファシリテーター側も、模索している。

それでも、キーワードにあがっている「対話」を中心に据え、単発の会議で終わらず、「共生社会の実現」に向けて、改めて会議のあり方を問うていく、ということで第 3 回の世話人会を終えた。

この会に確かにある「なんでも言える空気感」を大切にしていきたい。